

# 次期北九州市高齢者支援計画の基本的な考え方（案）

## 計画の基本理念について（案）

**新しいシニアライフの創造**  
 ～地域全体で支え合い、ずっと健やかに暮らせる安全・安心なまちづくり～

本市の高齢化率は政令市で最も高く、今後もさらに上昇することが予想されます。また、それに伴って認知症高齢者など援護の必要な高齢者や、高齢者単身世帯を含む高齢者のみ世帯が増加するとともに、高齢者全体の約8割を占める健康な高齢者も増加していくことが想定されます。

これまでの高齢者は、いわゆる「現役」を終えると趣味や生きがいづくりにいそしむスタイルが見られましたが、健康寿命が延伸し「人生90年時代」を迎えた現在、「現役」後の新たなステージにおいて、高齢者がそれぞれの「夢」と「希望」の実現に向け、新しい価値観を持った生き方（シニアライフ）が展開できる、多様性が認められた環境づくりが求められています。

また、高齢者が「現役」後も自らの心と体の健康を維持するとともに、これまでのキャリアを活かしながら、地域社会の担い手として幅広く活躍することが期待されます。

一方、本市では、高齢社会対策の中で、地域住民、地域団体、事業者、NPO・ボランティア団体、民間企業、行政などによる地域のネットワークづくりに取り組んできました。今後ますます少子高齢化や核家族化が進む中、生活支援の持続可能性を高めるためには、みんなで地域のネットワークを充実させていくこととともに、元気な高齢者の参加が期待されるコミュニティビジネスの展開も重要になってくると考えられます。さらに、行政としても、保健福祉の専門性を見地から、援護の必要な高齢者やその家族に今まで以上に寄り添っていく必要があります。

このような「地域主義」の考え方にに基づき、元気な高齢者がますます増え、その活躍が地域を支えるという新しいシニアライフをみんなで考え、創造しながら、援護が必要な高齢者とその家族を地域で支え合い、また、必要に応じて生活支援や医療・介護サービスを安心して受けることができるまちづくりを推進していきます。

基本目標	施策の方向性
<p><b>【健やか】</b></p> <p>いきいきと生活し、積極的に社会参加できるまち</p>	<p>生きがい・社会参加・高齢者活躍の推進</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>健康づくり・介護予防の充実</p>
<p><b>【支え合い】</b></p> <p>高齢者と家族を見守り支え合うまち</p>	<p>地域協働による見守り・支援</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>総合的な認知症対策の推進</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>高齢者を支える家族への支援</p>
<p><b>【安心】</b></p> <p>住み慣れた地域で安心して暮らせるまち</p>	<p>身近な相談と地域支援体制の強化</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>介護サービス等の充実</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>権利擁護・虐待防止の充実・強化</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>安心して生活できる環境づくり</p>

# 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議 平成26年度 第1回調整会議 主な意見等について

(平成26年7月1日、市庁舎 大集会室)

関連する会議	介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	介護保険に関する会議	地域包括支援に関する会議	認知症対策・権利擁護に関する会議
<b>主な意見</b>	<p>地域包括ケアシステムの構築にあたっては今ある資源を活用することになるので、地域の方に取組みを理解してもらうことが重要。そうすれば地域からいい意見が出てくる。</p>			
	<p>市民に対する啓発とともに、私たち構成員自身も計画のメッセンジャーになるなど行動を起こさなければならない。</p>			
	<p>高齢者自身がシニアライフを楽しむだけ、若い世代に支えられるだけでなく、社会を守り育てていくという積極的な計画ができればよい。</p>			
	<p>高齢者の地域参加の促進には市民センターで活躍している人たちが核にすることが重要である。また、核になる人を育てる学習活動も重要である。既存団体を活用しながら広げていくとよい。</p>	<p>地域包括ケアシステムの構築に向け、地域包括支援センターの機能の充実・強化を図ることが重要であり、高齢者等の在宅生活を支える関係機関との連携をさらに推進すると同時に各々が果たす役割を整理する必要がある。</p>	<p>市民後見人の養成・活用、後見申立件数が少なく、市民に虐待という意味をどれだけ伝えられているか疑問。高齢者全般の権利擁護を強調していく必要がある。</p>	
	<p>ボランティアについては、男性を含め、多くの人が若い頃から参画できる仕組みが必要であり、ボランティア養成とマッチングが一元化された分かりやすい窓口を検討してほしい。</p>		<p>虐待事例の対応に追われている状況だが、虐待防止が重要であり「虐待を起こさない地域」について考えていきたい。</p>	
			<p>徘徊高齢者の踏切事故で賠償請求される案件があったが、今回のような判決では家族介護者が本人を外に出さないようになってしまうので、事故時の行政補償について検討してはどうか。</p>	
<p>介護保険制度改正で新たに設置される役割の人材確保・育成について ⇒ 人材も含め、本市においてどのような目的で、どのような役割を担うことが最も効果的であるかを検討していく。</p>				

## 北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議 調整会議 構成員名簿

(五十音順、敬称略)

所 属	氏 名	参加分野別会議
認知症疾患医療センター センター長	井田 能成	認知症対策・権利擁護に関する会議
西南女学院大学 教務部長 保健福祉学部教授	○伊藤 直子	介護予防・高齢者活躍推進に関する会議 認知症対策・権利擁護に関する会議
北九州市民生委員児童委員協議会 副会長	財津 康男	地域包括支援に関する会議 介護保険に関する会議 地域密着型サービスに関する会議
市民委員（公募）	正角 道子	介護保険に関する会議
公益社団法人 福岡県介護支援専門員協会 常任理事	白木 裕子	地域包括支援に関する会議 介護保険に関する会議
認知症・草の根ネットワーク 理事	田代 久美枝	認知症対策・権利擁護に関する会議
市民委員（公募）	徳丸 直登	介護保険に関する会議
一般社団法人 北九州市老人クラブ連合会 副会長	中尾 道子	介護予防・高齢者活躍推進に関する会議
福岡教育大学教育学部 教授	中村 貴志	地域包括支援に関する会議 介護保険に関する会議 地域密着型サービスに関する会議
九州栄養福祉大学 小倉南区キャンパス副学長 リハビリテーション学部教授	◎橋元 隆	介護保険に関する会議
九州共立大学スポーツ学部 教授	古市 勝也	介護予防・高齢者活躍推進に関する会議
公益社団法人 北九州市医師会 副会長 若松区保健・医療・福祉・教育・地域連携推進協議会 会長	村上 吉博	地域包括支援に関する会議
公益社団法人 北九州高齢者福祉事業協会 会長	渡邊 正孝	介護保険に関する会議

◎・・・代表、○・・・副代表